

『協働によるまちづくり勉強会』～三日月のまちづくりをみんなで考えよう～ まとめ

発行：小城市 総務部 企画政策課

- 日 時：平成29年8月6日（日） 10：00～12：00
- 場 所：小城市生涯学習センター「ドゥイング三日月」 視聴覚室
- 講師・ファシリテーター：佐賀大学 全学教育機構 教授 五十嵐 勉 氏
- 参加者：三日月地区区長13人、三日月町内で活動している団体の皆さん等22人 計35人

次第



1. 開会
2. あいさつ
3. 小城市の協働によるまちづくりについて
4. 講話 『これからのまちづくりと地域コミュニティ』
5. ミニワークショップ 『三日月で豊かに暮らし続けるために、私ができること』
6. 閉会



平成29年8月6日（日）、三日月町に住む皆さんで今後の三日月のまちづくりを考えるきっかけとなるよう『協働によるまちづくり勉強会』を、小城市と三日月町区長連絡協議会と共催で開催しました。当日は、三日月町の各行政区の区長はじめ、町内の学校・幼稚園・保育園の代表、町内で活動されている団体等の皆さん35人が参加されました。

まず、佐賀大学の五十嵐勉教授による講話の後、ミニワークショップを体験してもらいました。講話では、地域のさまざまな問題について、地域の皆さんが自ら主体となって協働を図りながら、地域問題の解決や地域としての価値を創りだしていくための力、そして、その力を醸成していく過程が大事であること、これからは『地域力』が問われる時代であると話されました。

また、「子や孫に地域を誇れますか？」「誇りをもって、よそ者に自らの地域について話せますか？」と問われ、これからのまちづくりに必要なことは、『地域に対して誇りを持てるかどうか』だと述べられました。

最後に五十嵐教授は、「新旧住民の交流・意思疎通の場をいかに作っていくか」、「新旧住民の価値観のズレに対し、旧住民はチャレンジ精神と冒険心を持つこと、新住民は思い切って提案することを行ってほしい」、三日月町民としての悩みを共有した今日のミニワークショップは、三日月のまちづくりを考える第一歩になったのではないかと話されて、勉強会は終了しました。



感想

- ・考える機会を与えていただいた。(60歳代・男性)
- ・このような会合を自治会でも開くことも良いと思いました。(60歳代・男性、60歳代・女性)
- ・初めての参加でしたが、とても勉強になりました。小城市はとても住みやすい環境と実感していますが、更によくなると良いと思います。(30歳代・女性)
- ・新旧住民の発展的な意見の交流があるといいと思います。大変大きな学びになりました。(30歳代・女性)
- ・各種団体の世代交代が進む事がまちづくりにつながると考えます。
- 若い世代が積極的に発言・発案できる場が必要だと思います。(50歳代・女性)

◎ミニワークショップ

テーマ：「三日月で豊かに暮らし続けるために、私ができること」

三日月での暮らしの中で、何か憂鬱なことはある？
住民としての日頃の嘆き・不満・心配事を話し合い、
新旧住民の悩みごとを共有しよう！



ひと班5人の7班にわかれ、円型のダンボール（えんたくん）を机にして、席替えをしながらワールドカフェ方式で、ミニワークショップを体験しました。

…旧住民(三日月町在住40年以上)

…新住民(三日月町在住40年未満)

・個人主義が多い
・自的な考え、協力が少ない

・文化団体の高齢化、役員不足
→もっと積極的な気持ちを持ってほしい

・新住民の若い人々とどう接し、理解を深めるか
→会う機会が少ない

・高齢者と小中学生との接点や交流をどうするか
→地区で機会をつくる

1班

・ふるさと三日月を誇りに思える子どもを育てたい

・地区の自治会の役員に就いたが、旧住民・新住民との関わりが難しい

・働き盛りの頃に転入し、地域のしきたり等が分からず、十分にじんではない

・商業地区への転換

・子どもクラブの活動が変化(昔：海水浴・キャンプ、今：映画)

・戸数が増加。自治会活動が心配。特に、アパートの出現。

・自治会行事への自主参加が少ない(総会・レクリエーション)

3班

・子どもを畑やあぜ道で遊ばせて冒険をさせたい

・子どもの人数が減少し、地域が高齢化している
・老後の生活

・忙しいと感じる子育て世代。つながり…
・地域行事に参加する家庭が減ってきている

・自治会で発言すれば、すぐ「区長になって」と言われるから発言しにくい

・集まりが悪い。参加はいつも同じメンバー。

・顔と名前がわからない
・あいさつがない

・地域の方との付き合いが少ない
・住宅が増えて、地域の方の顔を知らない

・話し合いがなかなかできない
・話し合いにかたらない
・地域の世話をしたがない
・参加、協力があまりない

・交流会を開催したい。以前、釣り大会を開いたときは集まりも良かった。

・早く公民館を作ってほしい

5班

・近くにお店がない
・新しく住まれた人、アパートに住んでいる人、子どもたちの顔と名前がわからない

・新しい住民や子どもと話をしたい

・子どもがドジョウを知らない

2班

・他世帯の名前等がわからない
・部落の人とのコミュニケーションが少ない

・いつも同じ人しか集まらない
・近くに子どもの遊ぶ場所が少ない(公園など)

・部落の子どもクラブの加入が少ない。特に、アパートに住んでいる人が加入してくれない

・隣りの高齢者との会話が少ない
・高齢者の先々の生活のあり方

・子ども、若者がいない
・子どもの笑い声が聞きたい

・戸数が少ない

4班

・近所で話したことの無い人がある
・隣りと話すことが少ない。あいさつも難しい

・近くに知り合いはいるが、通学中にはいない

・子どもが遊ぶスペースがない

・地区のしきたり、行事が多い

・1人暮らしの人の世話

・町民運動会の参加が非常に少ない

・旧住民の権利意識が強い。今は改善されている。

・伝承行事が多い

・車(移動手段)しかないのに、仕事帰りに飲めない

6班

・昔の風習を知らない
・旧住民のつながりを知らない
・昔からの流れを言われるとわからない

・地区の集会は自由に発言しにくい雰囲気がある
・行事などの理解が難しい

・地域に24時間営業の店がない

・新旧住民のふれあい、交流の場がない
・話し合いの場がなく理解がない

・各種団体(自治会も含めて)の役員をする人がいない

・高齢化

・あいさつがづらい

7班